

- 昆明・モントリオール生物多様性枠組（新枠組）では、レビューメカニズムを強化
 - ✓ 各国が共通して使用することが求められる「ヘッドライン指標」を設定
 - ✓ 各国が新枠組を踏まえて改定する「生物多様性国家戦略の国別目標」を基に、新枠組に対する各国の貢献を世界全体で積み上げる分析を実施（COP開催毎）
 - ✓ 国別報告書（2026年/2029年）等を基に、世界目標の達成に向けた各国の取組の進捗状況を点検・評価する「グローバルレビュー」を実施（COP17/COP19）
 - ✓ これらにより、必要に応じて各国における取組の見直し等を提案

- 上記を踏まえ、我が国の次期生物多様性国家戦略では、以下のとおり対応
 - ✓ 国別目標である「状態目標・行動目標」の達成状況を測る指標を設定
 なお、ヘッドライン指標については、COP16までにその詳細を決定することとされているため、その使用の開始は、国際的な議論の動向を踏まえて判断
 - ✓ 新枠組の報告・評価プロセスのタイミングを踏まえ、指標や個別施策の定期的な点検（2年に1度を基本とする）や本戦略の評価を実施
 - ✓ 点検・評価等を踏まえ、必要に応じて指標や個別施策の更新や追加等の見直しを実施
 - ✓ 柔軟な見直しができるよう、国家戦略本文には「状態目標・行動目標」の達成状況を測る指標は盛り込まず、生物多様性国家戦略関係省庁連絡会議においてとりまとめ、公表

昆明・モンリオール生物多様性枠組と次期生物多様性国家戦略の対応関係

GBF ※

2050年
自然と共生する世界

2030年、
生物多様性を回復軌道に乗せるために損失を止め反転させる緊急な行動をとる

2050ゴールA～D（全4つ） ※2
ほぼ状態目標に対応 **ゴールごとにヘッドライン指標**

2030年ターゲット（全23つ） ※2
行動目標が多いが、状態目標も混在 **ターゲットごとにヘッドライン指標**

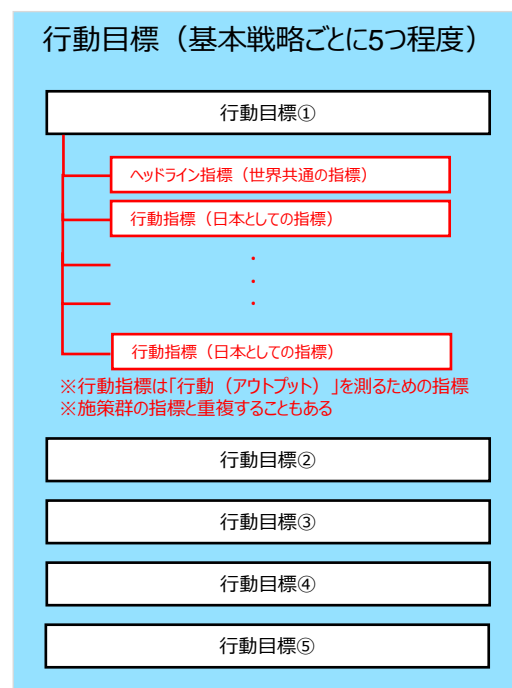
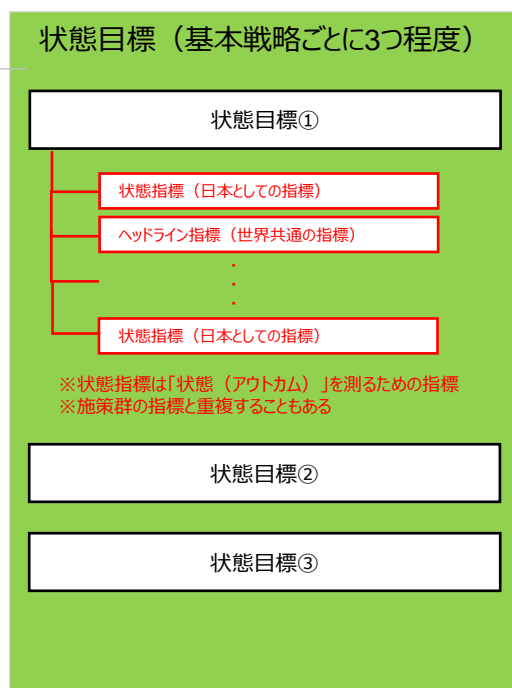
次期生物多様性国家戦略

2050年
自然共生社会

2030年
ネイチャーポジティブ

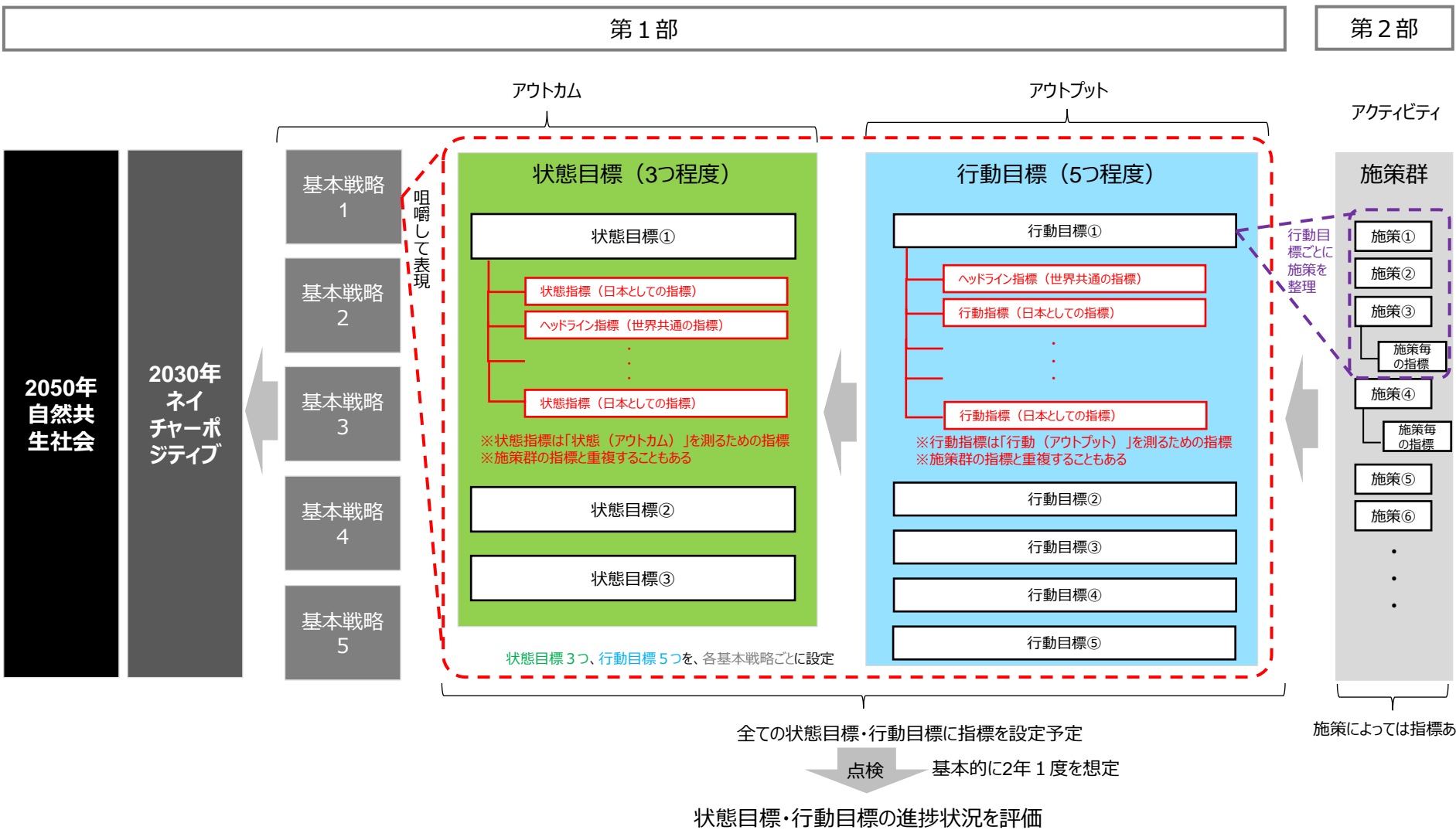
基本戦略 1
基本戦略 2
基本戦略 3
基本戦略 4
基本戦略 5

咀嚼して表現



※GBF
Global Biodiversity Frameworkの略。昆明・モンリオール生物多様性枠組のこと。

次期生物多様性国家戦略における指標の位置づけ



(参考) 状態目標と行動目標の違い
 30by30目標は「保護地域やOECMを増やす」という行動目標。その結果「生態系の健全性が回復している」のが状態目標。

次期生物多様性国家戦略において設定する指標の基本方針

<基本方針>

- それぞれの状態目標、行動目標に対し、その意図を的確に表現するなるべく最小限の指標群を設定。
- 各目標を①包括的に測ることのできる指標を優先。②包括的に測ることのできる指標がない場合は、各目標の主要事業に関連する指標等、代表的なものを少数ピックアップして指標を設定する。
- 生物多様性以外の要素も含む指標のうち、①生物多様性の要素を明確に区別できるものは、区別して指標を設定。②そうでないものは、それ以外の要素も含めて指標として設定（特に投融資・技術・消費等（基本戦略3、4関連））
- 基本的に、①状態目標の指標は「状態（アウトカム）」を測るもの、行動目標の指標は「行動（アウトプット）」を測るものとして区別。ただし、行動目標に状態目標の要素が含まれる場合には、それを測るための指標を行動目標の指標として位置づける。
- 本戦略の効果的な進捗状況・達成状況の把握のために、必要に応じて指標の更新や追加等の見直しを随時行う。

<今後の予定>

- 不足している指標群についてさらに検討・調整を進め、本年3月下旬に開催される「生物多様性国家戦略関係省庁連絡会議」において指標群一覧をとりまとめ、国家戦略本体とともに公表
- 次年度以降もヘッドライン指標の国際的な議論の動向や本戦略の評価、新たな指標の開発等を踏まえ、指標の更新や追加等の見直しを実施し、公表